

3 月議会一般質問答弁書

Q 齊藤町長の任期満了に伴い出处進退を伺う？

質問 1 回目

この 6 月に齋藤町長の任期が満了いたしますが、余すところ約 3 ヶ月となりました。しかしながら、現在においても出处進退について表明をしていない。町民は基より関係者等も困惑しておる状況であります。昨年 12 月の高知新聞にも掲載されており、奈半利町制が今後、どのようになるのか不安を抱いているのが実態である。

そこで、6 月の任期満了に伴い、出处進退を町長にお伺いをいたします。

答弁者 町長 齊藤一孝

寺村議員の質問にお答えいたします。

町長に就任しました平成 14 年から後 3 ヶ月で 4 期 16 年に成ります。その間町政の執行に誠心誠意取り組んで参りました。16 年前の情勢は国の構造改革の影響を受け、地方交付税の削減、行政の広域化や合併問題、基幹産業であります一次産業の不振など厳しい経済状況、過疎化や少子高齢化問題など町民の皆さんの日常生活は様々な不安を持って日々を暮らしているのが実情であったように思います。そういった中で多くの行政課題も御座いました。

特に 7 年前の東日本大震災発生以降は、南海トラフ大地震対策が町政を執行するうえで喫緊の重要課題となってまいりました。安全で安心な町づくりには災害に強い町づくりを進める必要があります、津波対策として奈半利港内堤防の整備、高台への避難路の整備、ヘリポート、防災拠点施設の建設、認定こども園の高台移転、住宅の耐震化等、町民の皆さんの、生命・身体・財産を守る為各政策を推進してまいったところであります。特に奈半利港の内堤防、また、個人住宅の耐震化事業につきましては、まだまだ進めて行かなくてはならないと考えております。

産業の振興につきましても町民の皆さんが少しでも豊かに暮らしていけるよう当町の基幹産業であります農業、漁業、商工業の振興政策としまして、高知

県産業振興計画との連携を図りながら、ハード事業とソフト事業を含めた産業基盤整備に取り組み、特に生産から加工販売を町全体での 6 次産業化に向けた取り組みにより、新たな特産品の開発や雇用の創出を図り、若者が定住できる町づくりを推進をしてきたところであります。

平成 20 年度より創設された「ふるさと納税」制度の町への効果は大きく、奈半利町の PR や地元産業への支援、新規事業者が生まれるなど雇用の創出、そして町民の皆さんの所得の向上といった成果が、徐々に表れておるところであります。またその効果から職員の意識の向上も生まれ、年末年始の休みも返上し、当町の農産物、水産物やその加工品を全国に届け、町を活気づけてくれました。

人づくりは町づくりであるという理念から、子育て世代の支援として、ふるさと応援基金を活用し、今議会で議決を頂いた奈半利町から大学、あるいは専修学校へ進学する学生へ費用負担を行うことにより、職業を選択できる人材を育てていく奨学資金の設置を行い、また若者の医療費の無料化、対象年齢も 15 歳から 18 歳へと引き上げることができ、安心して子育てが出来る環境づくりができたと考えて居ります。これもすべて議員の皆さんや町民の皆さんのご理解の賜物であると考えております。

また、子供からお年寄りまで明るく安心して暮らしていける町づくりとして、奈半利町社協と協力して「あったかふれあいセンター」などの事業を行っております。しかしながら課題はまだまだ山積しておりますが、私が就任以来目指した、奈半利町に生まれ育って本当に良かったと思われる町づくりのため、教育、福祉、産業、観光、防災、インフラ整備など一定の成果を挙げたと考えております。これも一重に町民の皆様、議会議員の皆様、町職員のあたたかいご支援の賜物と感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

今後は、後進に道を譲り、新たな町長のもと、次の時代に奈半利町を進めていただければと祈念しておるところでございます。以上でございます。ありがとうございました。

質問 2 回目

只今、齋藤町長より出处進退について明確な表明がありました。この 6 月には新しい町長が誕生することになります。齋藤町長は 4 期 16 年、就任当時より、

合併問題を始め、三位一体の改革等、財政の厳しい中、本当にご苦労されてこられました。私、個人としまして、立場は違うものの一緒に奈半利町発展の為、共に努力してきた思いがあります。寂しい気持ちが強いですが、これも政治家本人が決断されたことですので、しっかりと受け止め、心からお疲れ様と言いたいです。本当にご苦労様でした。